



<研究主題> 主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり  
～ 教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて ～

7月に行われた総合教育センターの学校支援講座を活用した職員研修について紹介します。研修での学びを生かして今後の授業づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

## <テーマ>

### 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて

<講師> 秋田県総合教育センター 指導主事 田口 峰子 氏

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から、学習活動や教師の支援について捉え直すことで「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図ることが求められている。

・ **指導の個別化** → 学習内容の確実な定着を目指して

**学習の個性化** → 学習を広め、深めることを目指して

・「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、「協働的な学び」を充実させる必要がある。

#### ◎ 「一体的な充実」のポイント

##### 「個別最適な学び」の視点

- ・ 既習の学習内容を確認する場面
- ・ 学習課題やめあてを設定する場面
- ・ 課題の解決に向けた手立てを設定、選択する場面
- ・ まとめや振り返りをする場面
- ・ 補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面 など



生かす

還元する



##### 「協働的な学び」の視点

- ・ 交流や共有の場面
- ・ 協議や討論をする場面
- ・ 整理やまとめをする場面
- ・ 制作や表現、実践をする場面
- ・ 発表をする場面
- ・ 教室の枠を超えた学びをする場面
- ・ 相互評価をする場面 など



演習の様子

- ・ 「個別最適な学び」や「協働的な学び」は、ねらいを達成するための手立てである。
- ・ ICTは教育活動の基盤的ツールとされている。教育の質の向上につながる活用を検討する。

#### <講座を受けての感想等>

- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点で単元を考えると、これまでの授業で足りなかった部分、もう少し頑張ればできそうな部分が見えてきた。授業について、職員で話すことが大切。
- ・ 特別支援学校では、従来から指導の個別化を考慮し、子ども一人一人の学び、活動を考えてきたが、それが最適な学びになっていたか、評価、検証が十分にされていなかったかもしれない。また、協働的な学びも同様で、全体の活動を個別におろしきれないことも多々あったと思われ、もっと考えていく必要を感じた。
- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を考える際、日々の児童生徒の見取りが大切だと改めて感じた。
- ・ 「個別最適な学び」で、一人一人に何が身についたのか、しっかり考えていきたい。